

平成29年度犀峽高等学校・篠ノ井高等学校犀峽校
関東同窓会総会及び懇親会開催について（報告）

関東同窓会長 山口 繁実

希望を高く持ち、熱心に教育をしておられる犀峽校の先生、先生の教えを自分の身に吸収をと頑張っている生徒の皆さん、そして学校のために一生懸命努力されておられる信州新町にお住いの皆様、お元気ですか。

故郷を離れて関東地区に就職をし、今も元気である諸先輩が、一堂に会し親睦をする同窓会が、去る六月三日土曜日に、東京の麹町にある弘済会館で開催されました。

出席者の内、最高齢の方は、更府吉原出身で、昭和26年度卒業の木村梅子（旧姓牛澤）さん、最年少の方は、津和日影出身の昭和55年度卒業小林博文さんでした。本年は、ご来賓として、新任の副校長宮澤典彦様、新任の本部同窓会長吉澤幸治様そして前本部同窓会長で、新任の同顧問の武田武様に御臨席を頂きました。

総会の議事に先立ちまして、例年のごとく、我が母校の校歌を全員で斉唱しました。指揮者は、お馴染の今井治江さんです。

総会に入り、山口会長の御礼の挨拶がありました。共に学びあった人達が、縦の糸と横の糸とが繋がっている、母なる学び舎を思い、関東支部同窓会の継続のため、そして母校の本部同窓会並びに学校のクラブ活動の活動に協力をしたい旨、熱い想いを語られました。ちなみに、カヌークラブの援助になればと、自身が作った募金箱を掲げ、ワンコインのお願いをしました。（懇親会の席では、自ら、各テーブルを回り、寄付を頂きました。）

吉澤本部同窓会長様からは、生まれてからずっと地元で生活しています。関東に就職された皆様が、母校を思う心に触れ、そして本部同窓会のこと、学校のことなどに、熱い思いで考えていることに触れ、皆様の期待に応えるため、しっかりやっていきたい。生徒たちにも、しっかりエールを送っていきたい旨のご挨拶がありました。

宮澤先生からは、関東支部同窓会への出席を心から楽しみにしていた旨のご挨拶がありました。18歳の年に上京し、大学生生活をしたこと、上京には、新幹線がなく時間がかかったこと、皆さんが上京した頃は、蒸気機関車の頃でもっと時間がかかったのではないかと思います。今は、新幹線で上京すれば、夕方には長野の家に帰れます。ここに御列席の皆様は、故郷を離れてから、大変苦勞をされてきたことと思います。校歌の三番に、「未来を開かん」とありますが、私達は、「未来を創る」「同窓生を含めて窓を開く」という信念をもって、教育活動をしていきたい。昭和63年9月に牧野島に移転してから30年になります。本年2月28日には、信州新町出身の木版画家塩入 久さんから「唄のふるさと」という木版画と原画を寄贈してもらったことの紹介がありました。学校活動については、学校だよりをお読みくださいとのお話がありました。故郷にお帰りの際は、是非、学校にお立ち寄り下さいという旨のご挨拶を頂きました。

武田顧問からは、同窓会の顧問としてお世話になることになりました。副会長4年、会長4年の8年間、関東支部の皆様にはお世話になりました。地元に残って、皆様の期待に応えるべく、母校を支えていきたいとの決意表明と、関東支部同窓会の皆様には、益々のご協力をお願いします旨のご挨拶がありました。

その後、議事に入り、平成28年度事業報告、同会計報告及び会計監査報告が行われ、全会一致で承認されました。28年度卒業の笠井忠一様の御発声により乾杯が行われ、懇親会に入りました。2時間30分にわたる懇親会も、あっという間に終わった感じでした。

最後になりますが、銘菓をご寄贈いただいた梅林堂様と総会及び懇親会でお世話頂いた弘済会館様に厚く御礼申し上げます。

広報担当 太田正孝

